

丹沢：源次郎沢

◆日程 2023年9月2日(土)

◆メンバー L: TY、IZ、AZ、DT

2018年入会直後3本以来5年間行けなかった沢。ちょっとの不安と楽しみの一日となった。DTさん車で林道を戸沢まで入ることができ、2時間前倒し行動で大変助かった。朝の陽ざしが斜めに差し込む静寂の中、入渓。滝を見上げると木々の瑞々しい緑が目に入り、ここにいることに感動する。うれしくて、濡れずに行ける場面でもつい水流のなかを行ってしまう。

順調に小滝を通過。F5、F6はリッジにそれず流芯わきを「つめてー！」と直登。フォローでもスリリングな場面があり、ここをリードするTYさんやっぱり強い。ご一緒するのを楽しみにしていた、AZさん。難しいヌンチャクの回収をお願いした場面「ここ難しいねえ」とおっしゃりつつそんなそぶりも見せずに安定し無駄なく行かれる様は噂にお聞きしていた通りであった。F6でDTさんは高巻し、その後復帰するよいルートがなく徐々に尾根上を離れてしまい、泥で滑る斜面を下りて合流。高巻も難しいのだ…と知る。

水がなくなり枯滝になっていき、途端に暑くなる。フットジャムを習う、体の使い方が増えるのはうれしい。今季個人装備で買ったバイルでハーケンの練習。打つにつれ岩の割れ目に食い込んでいくと‘キーン’と音が高くなる、とAZさんが教えてくださる。ああこの音か、とわかった。抜けたハーケンの紛失防止に結んだスリングを、夢中で打つ過程で叩き潰してしまい、これはもう使わないほうがいいねと指摘される。認識せずに使っていたら切断事故につながるわけで、安全な道具の使用・管理は重要だと痛感した。

F10CS10mをTYLから「登る？」と聞いていただく。外岩への苦手意識から一瞬逡巡するが、最近ジムでホールド・重心移動を事前に読む「オブザベーション」を心掛けており行けると感じ「やります」と答えた。時間をかけてしまったがオンサイトでできともうれしい。三番手のDTさん、壁の中ほどで止まってしまい「厳しいです…」といいながらも慌てずに、上から下からの声掛けに慎重に対応し危なげなく登りきった。勇気ある撤退や転進もときに必要だが、できないと感じたことを乗り越えるのは素晴らしく、パーティみんな喜んで。

反省が三点。①遡行図と2万5千分の1地図がザックの中で、ルート読みは先頭のL任せになってしまった。なかなか出せないカメラ同様携行を工夫したい。②ガチャ類をハーネス左右・肩かけギアラックに用途別に分けていたが、支点構築で結局手間取った。バイル含め使いやすくしたい。③崩れるツメと荒れた天神尾根の下りが難しく自分的核心となった。好きな分野を伸ばすのは楽しいが苦手をなくし平均して全体的にレベルアップしないと本チャンへの道は厳しいなと今回も思った。

渡渉やゴルジュ突破、泳ぎなど自分が経験していない未知の世界がいっぱいある。沢の世界は無敵なのだろう。何度でも行きたいなとザイル祭明けの二日酔いの頭で思う。(記: IZ)



CT: 戸沢駐車場 7:20 - 入渓 7:30 - F5 8:10 - F10 11:00 - 大倉尾根 (花立山荘下)
12:30/13:00 - 天神尾根分岐 13:20 - 戸沢駐車場 14:30